



歯学部創設30周年



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 五十嵐 武
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>

昭和大学歯学部は創設30周年を迎えました。

新任教授挨拶

口腔リハビリテーション科 高橋 浩二

この度、平成19年9月11日付けをもちまして昭和大学歯学部口腔リハビリテーション科教授を拝命致しました。これはひとえに先生方のご厚情とご支援の賜物と衷心より感謝申し上げます。

私は歯学部一回生として本学に入学し、卒業後は現在本学名誉教授でいらっしゃる道 健一先生のご指導の下、第一口腔外科学教室の大学院生、医局員として口腔外科全般ならびに口腔機能障害の診断と治療について体系的にかつ最先端の知識と技術を学ばせて頂きました。同教室の講師を経て平成16年6月1日、口腔衛生学教室向井美恵教授がご尽力された言語・摂食・嚥下リハビリテーション診療室を発展させた診療科として新設された口腔リハビリテーション科、科長に就任させて頂きました。



本診療科は摂食・嚥下障害、言語障害、呼吸障害(閉塞性睡眠時無呼吸低呼吸症候群、いびき症)、異常舌習癖などの口腔機能障害全般に対応する科であり、今後は口腔外科、高齢者歯科、総合内科、障害者歯科、歯科放射線科、小児歯科をはじめ関連各科、関連部署と密に連携を図りながら診療をさらに発展させていきたいと思っております。

先日の総務省の発表では日本の65歳以上の高齢者人口は2,744万人(平成19年9月15日現在の推計)で、総人口の約22%となり、80歳以上の人口も初めて700万人を超え(713万人)、超高齢社会が具現化したことが明らかとなりました。摂食・嚥下障害に起因する誤嚥性肺炎は要介護高齢者の死因の最上位の疾患といわれ、今後ますます摂食機能療法および口腔ケアの需要が高まることは明らかであり、当科におきましても社会的要請に応えるべく日々最大限努力していきたいと思っております。さらに平成20年に創設される後期高齢者医療制度のキーワードは訪問診療であり、当科は開設以来、在宅あるいは在施設の摂食・嚥下障害患者に対して積極的に訪問診療を行ってまいりましたが、今後は関連他科、関連部署とスクラムを組みながら、訪問診療を発展させていきたいと思っております。また、地域医療連携につきましても歯科医師会や医師会などでの啓蒙活動を通じ、病一診連携、病一病連携をさらに充実させていきたいと思

います。一方、昭和大学医学部との連携につきましては、現在まで烏山病院や、旗の台呼吸器内科、耳鼻咽喉科、形成外科、リハビリテーション科、神経内科との連携に取り組んでまいりましたが、まだまだ十分とはいえません。今後も、医学部の先生方の信頼を得るため誠心誠意努力したいと思います。

教育におきましては口腔機能障害の対応を理解し、全人医療の一翼を担え、社会的要請に応えられる歯科医師の養成に全力を注ぐと共に、他学部での講義を通じ、歯学部の取り組みを紹介していきたいと思っております。

研究では口腔機能障害の客観的評価法の開発、口腔機能障害と高次脳機能との関連の解明を主たるテーマとして進めていく予定です。

このように今後行うべき課題は山積されております。学内外の諸先生方、関連部署の皆様方よりご指導、ご鞭撻、お力添えを賜りたく、何卒宜しくお願い申し上げます。

第5回 四大学歯学部交流

教育委員長 佐藤 裕二

本歯学部は、同じような目標を持つ他大学と、卒前・卒後の教育制度や、将来の学部学生、大学院生、研修医レベルの交流について、4年前より、北海道医療大学歯学部、岩手医科大学歯学部、福岡歯科大学と情報交換をしてきました。

今回、9月3、4日に、当大学で第5回四大学交流会ならびに四大学教務事務連絡会が開催されました。当大学からは宮崎学部長、立川学生部長、山本選択実習委員長と私が参加し、教務の全面的なバックアップの元で行われました。今回は選択実習がテーマであり、各大学の取り組みについて講演がありました(当大学からは山本選択実習委員長)。本交流会の成果でもある各大学における学生の相互受け入れ状況などについても非常に参考になりました。夜は懇親会が行われ、活発な意見交換を行いました。翌日は、共用試験、国家試験対策、臨床研修に関する忌憚のない意見交換が行われ、閉会となりました。

昭和大学の進んだ面を再確認すると同時に、他大学の進んでいる面についても認識が深まり、大いに刺激を受けた交流会でした。

歯学部進学相談会

入試広報委員長 山田 庄司

歯学部オープンキャンパス(進学相談会)が平成27年7月28日(土)、8月25日(土)の2回、歯科病院で行われました。参加者は第1回が57組約



90名(男26名、女31名)、第2回が60組94名(男23名、女37名)でした。土曜日の診療が終了した両日とも第2臨床講堂で全体説明会[14:00~15:00]の後、休憩を挟んで8グループに分かれて、歯科病院の見学[15:00~16:00]が行われました。見学終了後、第1と第2臨床講堂に分かれて、個別相談会[16:00~17:00]が行われ、参加者からは入学試験(特に面接と小論文)、学費、クラブ活動などに関して熱心な質問がありました。進学相談会の運営にご協力頂いた16名の教員と事務職員には心より御礼申し上げます。また、9月22日(土)には旗の台キャンパスにて模擬授業と進学相談会が行われました。なお、「旗が丘際」が行なわれる10月13日(土)と14日(日)の両日には4学部合同の進学相談会が開催される予定です。

平成20年度臨床研修歯科医師採用試験実施報告

総合診療科 長谷川 篤司

平成20年度臨床研修医の採用試験が9月8日(土)に実施されました。臨床研修必修化3年目を迎え、臨床研修施設群方式のプログラムA(募集定員50名)に加えて単独型臨床研修施設方式のプログラムB(募集定員50名)合計100名の研修医募集に対し、受験者数は200名(新卒153名、既卒47名)と予想より若干少ない受験生となりました。このうち昭和大学出身者は97名(新卒87名、既卒10名)が受験しました。



試験内容としては、面接試験と筆記試験が採用され、受験生は旗の台校舎内の2会場(1号館:面接試験会場と4号館:筆記試験会場)を巡回して受験しました。面接試験には各教室より選任された24名の面接委員にご協力をいただきました。また、昨年度から

採用されている筆記試験は国家試験形式の5者択一問題で、一般常識問題35題と歯科的学科試験65題が出題されました。採用試験の結果は、10月16日までに臨床研修医マッチング協議会に提出され、10月30日に協議会からマッチング結果として発表されます。

科学研究費若手研究スタートアップの採択内定

歯学部研究活動委員会委員長 上條 竜太郎

8月22日、日本学術振興会は平成17年度の標記研究費の交付内定を発表しました。本研究費は研究機関に採用されたばかりの研究者が一人で行う研究に対する補助金で、研究期間は2年です。昭和大学全体の内定件数は5件で、その全てが歯学部でした。交付内定者の氏名と所属は以下の通りです。なお、平成19年度交付内定額は全員で675万円でした。

安原理佳(口腔生化学)、望月文子(口腔生理学)、臼井通彦(歯周病学)、三森香織(歯周病学)、大岡貴史(口腔衛生学)

(敬称略、日本学術振興会の通知順)

平成19年度 歯学体成績

学生部長 立川 哲彦

第39回全日本歯科学学生総合体育大会の夏季部門は主管校:松本歯科大学にて平成19年7月28日から8月10日まで開催されました。すでに冬季部門が終了していますので、本年度の昭和大学歯学部の総合成績は29校中13位で、昨年の17位の成績からすると大健闘の結果です。ポイント挙げたクラブはスキー部(2位)、硬式庭球部(4位)、バドミントン部(7位)、バレーボール部(5位)、柔道部(5位)、弓道部(5位)でした。他のクラブも健闘いたしましたが、ポイントを上げるまでには至りませんでした。来年度の第40回大会は岩手医科大学が主管校で、盛岡で開催される予定です。学生諸君のさらなる健闘を祈ります。

受賞

広報委員長 五十嵐 武

・臼井 通彦 (歯周病学 助教)

平成19年8月29-31日に札幌で開催された第49回 歯科基礎医学会学術大会において、優秀ポスター賞を受賞されました。

演題名:「BMP2は軟骨細胞の誘導する破骨細胞形成をRANKLの産生を介して増加させる」



第49回 歯科基礎医学学会に参加して

口腔生化学 安原 理佳

2007年8月30, 31日の両日にわたって、第49回歯科基礎医学学会が北海道大学において開催されました。今年は北海道大学の脇田稔先生が会頭をお務めになり、『歯科基礎医学におけるフロンティアスピリット—口腔から全身へ、そして口腔へ—』をテーマに各部門において研究の成果が発表されました。

今年是一般講演とポスター発表に加え、ポスターワークショップというミニシンポジウム形式の口頭発表が行われました。私達はポスターワークショップにおいてジンジパインが破骨細胞分化に及ぼす作用について発表し、多くの質問やアドバイスを受けることにより私たちの研究内容を一層深く見つめ直す有意義な機会となりました。ランチョンセミナーでは『次世代再生医療としての歯の再生』と題し、東京理科大学の辻孝先生のご講演が行われました。辻先生はマウス胎齢14.5日の歯胚から *in vitro* でほぼ正常な組織構造を有する歯を再生させる事に成功し、再生医療への応用の可能性を示されました。また、懇親会はサッポロビール園で盛大に行われ、鉄板から立ちのぼる白煙のなか、ジンギスカンを楽しみました。

来年は本学会の第50回目を迎え、昭和大学が主幹校となりますが、その責任の重大さに身の引きまわる思いが致します。

第12回 昭和大学歯学教育者のためのワークショップに参加して

歯科理工学 堀田 康弘

今年も8月21日から23日までの3日間にわたり、歯学教育者のためのワークショップが開催されました。毎年



夏の恒例行事となっているこのワークショップも今回で第12回目を迎え、開催場所が昨年までの三島から、昭和大学富士吉田校舎に変わりました。今回のワークショップでは、基礎実習の改善をメインテーマに据え、現在の基礎系、臨床系という区別を廃した統合も視野に入れたカリキュラムの可能性について討論が交わされました。これまでのワークショップでは、グループ毎に違ったテーマで、カリキュラムプランニングが進められていましたが、今回は全グループが同じテーマに沿ってプランを出し合い、意見交換をおこなうというスタイルで進められました。四大学交流校からは、北海道医療大学の歯周歯内治療学講座から加藤幸紀先生をお迎えし、同大学の授業や実習体

型についてお話しをしていただいた上に、昭和大学の基礎実習についてのグループディスカッションにも参加していただきました。最終日には、薬学部のワークショップと共催という形で、小口理事長の講演会があり、歯学部や薬学部の現状や将来について大変興味深いお話を聞くことができました。その後、修了書の授与がありお開きとなったわけですが、参加者の大部分が昭和の卒業生ということもあり、富士吉田でのひと時が、懐かしくもあり、また、その変貌ぶりに驚かされたワークショップとなりました。

第3回 ファシリテータ養成ワークショップに参加して

PBL委員 平野 薫

第3回歯学部ファシリテータ養成ワークショップが、9月22日に昭和大学旗の台校舎にて開催されまし



た。参加者は20名で(准教授2名、講師6名、助教12名)、タスクフォースは歯学部長 宮崎 隆先生と歯学部PBL委員7名が務めました。

今回のワークショップの流れは、「昭和大学歯学部教育の特徴とPBLチュートリアル」について歯学部PBL委員長 中村雅典先生より説明があり、参加者を学生役・ファシリテータ役に役割分担した体験PBLを行い、次にPBL上のトラブルにどのように対応するか考える「あなたならどうする」を討議しました。体験PBLでは、歯学部第1学年および第4学年で実際に用いられたシナリオを使って実践に近いロールプレーを行うことにより、PBLの流れを理解するとともにファシリテータとして何を求められているかを確認しました。また、「あなたならどうする」では、ファシリテータとしての対応(学生への助言や誘導を行う上での注意事項や工夫など)について各班から様々な意見が出されました。今回のワークショップではファシリテータ経験者が何名か参加していたためか、かなり実践的な意見も多く挙げられていたようです。また、ファシリテータ経験者を留年学生と見立てて留年学生が混じっている班の対応についてのコメントが挙がる等、全体発表は大変興味深いものがありました。

指導医取得

広報委員長 五十嵐 武

・須田 玲子 (歯周病学 講師)

日本歯周病学会認定指導医を取得されました。

アデレード大学での研修を経験して

歯学部4年 中山 睦子

8月4日から2週間にかけて、オーストラリアにあるアデレード大学での研修に参加させていただきました。この2週間は主に、最高学年である5年生の治療の見学やアシスタントをさせていただきました。

アデレード大学は1年次から基礎実習が始まり、今回、私たちが4年次で行うスケーリングやラバーダムを用いる実習も1年次で行っていることにとっても驚きました。臨床実習も早くから始まり、医療面接から治療の説明、治療後の説明まで、チューターの先生の指導のもと、学生が全て行っていました。患者さんも教育の場であるデンタルホスピタルをよく理解し、治療や指導においても、とても協力的で、私たちがチューターの先生に臨床経験がないことを話すと、何人かの治療をとめて私たちが口腔内の説明を受けることも快く引き受けてくださりました。また、矯正の治療もたくさんの症例を見せていただき、現在習っている矯正の授業を視覚的に思い出すことができました。

この研修を通して、人種、文化、言語、全てが異なる環境のなか、歯科医師を目指すという共通の目標を持つたくさんの友人と出逢い、様々な国における歯科医師の現状や自分たちの今後について話すことにより、自分の今ある現状を見つめなおす良い機会にもなりました。

最後になりますが、この留学の機会を与え、支えてくださった先生方に心より感謝いたします。

大連医科大学での選択実習を経験して

歯学部6年 野瀬 冬樹

私は、平成19年5月20日から28日の1週間、中国にある大連医科大学付属口腔医院で選択実習を行いました。大連の街は海に囲まれて緑が多く、物価が安い上に食事が美味しいので生活環境は良いものでした。また、私が訪れたときはアカシアの花が開く時期で、とても美しい季節でした。実習内容



は外来での見学であり、保存科、補綴科を中心に様々な処置を見学しました。日本への留学経験がある先生方とは日本語でコミュニケーションをとることが可能であり、日本語が堪能な先生方以外の多くの先生方とは英語により会話をすることができました。先生方はとても親切に私と接して下さり、すぐに新たな環境に馴染むことができました。診療の内容やレベルは日本とほとんど変わらないというのが率直な印象で、材料は不足してはいるものの、中国の歯科医療の高さを実感しました。また、口腔内科(保存修復科)の教授とその医局員の方々に昼食に招待された

り、若い先生方と診療後に町に出て夕食を食べに行ったりと、交流をさらに深める機会を私に与えて下さいました。

この大連医科大学での選択実習は、多くの先生方や大学院生の方々にとってもお世話になり、非常に充実した経験となりました。このような貴重な経験を私のこれからの人生に生かし、将来の目標に向けて着実に進んでいきたいと考えています。また、これからも機会があれば積極的に海外の医療に触れたいと考えています。最後になりますが、この実習を実現しサポートして下さった宮崎歯学部長、山本教授をはじめとする多くの先生方、大連医科大学の先生方や大学院生の方々に深く感謝いたします。

異動

広報委員長 五十嵐 武

・中村 幸生 (齶蝕・歯内治療学 准教授)

9月30日付けで昭和大学を退職され、10月1日付けで明海大学歯学部 機能保存回復学講座 歯内療法学分野に教授として赴任されます。

・木村 裕一 (齶蝕・歯内治療学 准教授)

9月30日付けで昭和大学を退職され、10月1日付けで奥羽大学歯学部 歯科保存学講座 歯内療法学分野に教授として赴任されます。

行事予定

広報委員長 五十嵐 武

10月2-4日:職員定期健康診断

10月12-14日:旗が岡祭・いぶき祭

10月13日(土):第10回歯科病院公開講座

10月16日(火):解剖慰霊祭

10月20日(土):第36回旗の台公開講座

診療統計 (平成19年8月分)

医事課課長 長谷 孝義

	患者数	1日平均	前月1日平均	前年1日平均
外来患者	18,125	671.3	723.3	685.4
入院患者	417	13.5	13.3	17.2

編集後記

広報委員(歯周病学) 小林 誠

お暑い中、執筆していただいた先生方に感謝致します。さて、すでにご存知の方も多いと思いますが、齶蝕・歯内治療学教室の中村幸生先生、木村裕一先生が9月末日付けで退職され、10月1日付けでそれぞれ明海大学、奥羽大学に教授として赴任されます。両先生の今後のご活躍を心からお祈り申し上げます。